P-3-095

産業保健マーケティングの研究報告３ ー教育支援ツールKWMの職域への応用可能性

栗島　一博、内田　信二、徳田　洋祐、阿部　尚美、
石川　英子、三輪　生子、柳林　幸子、JAHNG Doosub
国立大学法人　九州工業大学大学院　生命体工学研究科　脳情報専攻　チームマネジメント分野

【はじめに】近年、教育機関における制度改革に伴い、授業の内容と方法の改善を図るための組織的な取り組みが活発になっている。現在用いられている授業評価アンケートや期末試験など授業後に行われる評価は開講期間中の授業改善に役立てることが難しいため、学習者の反応を調べてフィードバックする形成的評価の実施が重要視されている。本研究は、既に一部教育現場で使用してきた形成的評価支援ツールであるKWM(Key Words Meeting)をCHRISモデルに導入するにあたり、組織の人的資源管理で多く用いられる教育介入におけるKWMの可能性と5ポイント評価におけるKWMの位置づけを紹介することを目的とする。

【KWMの紹介】KWMの流れを図1に示す。KWMに実装している主な機能は、指導者キーワードと説明の事前登録ならびに学習者の授業後の投稿、両者のキーワードの評価・開示、記憶率と理解率の定量指標の算出、フィードバックの推移と効果測定、学習者とのコミュニケーション支援、5ポイント評価の2～5時点評価で用いる質問票調査の実施支援である。学習者はPCまたは携帯電話のWebブラウザを用いて、教育介入時に記憶に残ったキーワードとその説明を投稿することができる。

【KWMと5ポイント評価との関連】CHRISで提唱する5ポイント評価との関連は以下の通りである。2)介入直前の現状評価（参加率＝参加者／当該プロジェクトの潜在的対象者数、KWM質問票機能による参加動機）、3)教育介入期間中における形成的評価（KWMの記憶率と理解率、フィードバックによる記憶と理解の変化など）、4)教育介入直後の評価（KWM質問票機能による意図、自己効力感）、5)介入後3ヶ月での評価（KWM質問票機能による介入直後からの継続度、3ヶ月以降の意図と自己効力感）

【考察】教育介入は産業保健領域のみならず人材育成プログラムの多くで用いられており、介入期間中における指導の改善や第3者による外部評価への対応など、大学などの教育機関と同様の課題を持っている。KWMは受講者の反応を評価しながら教育戦略を介入期間中に調整でき、また指導内容に大きく依存せずに利用できる汎用性を持つことから、健康講話や特定保健指導、人材育成などの組織における教育介入時にも有効であると思われる。

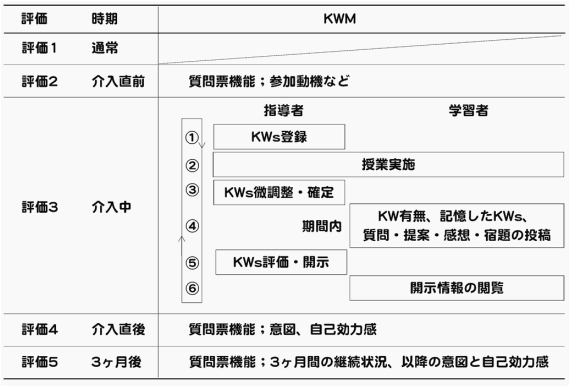

図1　5ポイント評価とKWMとの関係

ポスター3

6/2